

大阪湾再生推進会議（第1回）会議録

参考資料4

日時：平成15年7月28日（月）

14:30～16:30

場所：大阪府知事公館

【出席者（敬称略）】

- | | | |
|---------------------|---------------------|--------------|
| ・大阪府知事 | | 太田 房江 |
| ・内閣官房 | 都市再生本部事務局次長 | 渡辺 日佐夫 |
| ・国土交通省 | 近畿地方整備局長 | 谷口 博昭 |
| ・国土交通省 | 近畿地方整備局副局長 | 穴戸 達行 |
| ・海上保安庁 | 第五管区海上保安本部長 | 伊藤 隆 |
| ・環境省 | 環境管理局水環境部 閉鎖性海域対策室長 | 坂川 勉（代理出席） |
| ・農林水産省 | 近畿農政局次長 | 斎藤 仁志（代理出席） |
| ・水産庁 | 漁港漁場整備部 生態系保全室長 | 長畠 大四郎（代理出席） |
| ・林野庁 | 近畿中国森林管理局 計画部長 | 尾頭 誠（代理出席） |
| ・滋賀県 | 琵琶湖環境部次長 | 伊藤 潔（代理出席） |
| ・京都府 | 企画環境部長 | 中村 彰 |
| ・京都府 | 土木建築部 下水道課長 | 松尾 和巳（代理出席） |
| ・大阪府 | 環境農林水産部次長 | 成相 成悦（代理出席） |
| ・大阪府 | 土木部長 | 小河 保之 |
| ・兵庫県 | 健康生活部環境局長 | 野村 正路 |
| ・兵庫県 | 県土整備部長 | 陰山 凌 |
| ・奈良県 | 生活環境部次長 | 伊藤 進（代理出席） |
| ・奈良県 | 土木部 下水道課長 | 田中 忠司（代理出席） |
| ・和歌山県 | 企画部 企画総務課副課長 | 高木 一郎（代理出席） |
| ・京都市 | 総合企画局 政策推進室政策企画課長 | 尾本 恵一（代理出席） |
| ・大阪市 | 都市環境局長 | 木葉 佳成 |
| ・大阪市 | 港湾局理事 | 檜崎 雄二（代理出席） |
| ・神戸市 | 環境局次長（環境保全担当） | 西尾 司（代理出席） |
| ・神戸市 | 建設局 下水道河川部長 | 尾崎 昭彦（代理出席） |
| ・神戸市 | みなと総局 技術本部長 | 竹山 征治（代理出席） |
| ・財団法人大阪湾ベイエリア開発推進機構 | 常務理事 | 川口 徹 |

1. 開 会

2. あいさつ

近畿地方整備局長・本日はお忙しい中、お暑い中を大阪湾再生推進会議の第1回にご出席いただき、ありがとうございます。また、都市再生本部から渡辺次長以下、関係省庁の方々には東京から大阪にお越しいただき、誠にありがとうございます。さらに、太田知事には大変お忙しい中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

大阪湾は古くから「茅渟(ちぬ=黒鯛)の海」といわれ、自然環境豊かで、漁業資源の豊富な海だったそうです。古代から、大阪はもちろん、奈良、京都、滋賀、兵庫と都がありましたが、これは大阪湾とそれに続く瀬戸内海があって国内外との交流が開けていたことが一つの要因ではないかと思われます。

そのように都があった関係で、この周辺地域は古くから発展してきましたが、人口増加、産業の近代化等によって、大阪湾を中心に埋め立てをしてきたという経緯があります。その結果、今日では、自然海岸が東京湾には10%あるのに対して、大阪湾は4%と半分以下になっています。

そうしたことが一因となりまして、たとえば、CODは1日180tという負荷がかかっていますし、その結果として、水生生物の棲息空間が少なく、海の自然浄化能力が低下して水質汚濁が慢性化しているという状況になっています。

こうした中、都市再生本部において都市再生プロジェクト第3次決定として、大都市圏における都市環境インフラの再生が決定されました。大阪湾においても、本年6月26日の本部会合において再生推進会議を設立し、大阪湾再生に取り組むこととなった幸いです。後ほど、詳しく経緯等の説明があるかと思えます。そうしたことで、本日は第1回の推進会議が開催されることとなりました。知事にも、皆様方にもいろいろな形でお世話になりましたが、さる3月16日～23日の第3回世界水フォーラムにおいてこの地域の連携の気運が高まっており、また、阪神タイガースも調子がよいようですので、この連携気運をベースに、皆様方のご協力をいただきながら、具体的な行動計画を策定し、大阪湾の再生に向けた取り組みが推進されることを期待しまして、冒頭のごあいさつに代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

大阪府知事・開催地として一言ごあいさつさせていただきます。本日は近畿地方整備局の谷口局長、都市再生本部事務局の渡辺局次長にお越しいただき、そして、国の関係機関、9県政令市の皆様にも暑い中ご足労いただきまして、大阪湾再生を推進するための会議が立ち上がったことを、私自身も大変うれしく思っております。ありがとうございます。

先程、谷口局長より大阪湾と東京湾の比較を含めてさまざまなお話がございまし

たが、この大阪湾は、関西にとっては母なる海ともいえるもので、気候の調節はもちろん、その他にも自然とのふれあい、レクリエーションの場など、水なくして関西は語れません。歴史深くたどっても、その母体としての役割を長らく果たしてくれて、今日風の言葉でいえば、都市環境インフラになると思いますが、こういう言葉を越えた存在であったかと思います。古事記でも「茅渟(ちぬ=黒鯛)の海」と呼ばれ、豊かな水産資源にも恵まれて、私たちに文化と暮らしやすさ、生活そのものを与えてきてくれました。

こういう大阪湾も、都市化と工業化の波に洗われる過程で、しだいに海岸線が工場やその他で埋まるようになり、府域では、砂浜も7km、海岸線延長の2.7%しか残っていないという状況になりました。もちろん、このベイエリアは産業・経済にとっても活力の源ですので、環境と成長のバランスをとる一つの拠点でなければならないと思っておりますが、全体として、産業や経済をどのような形に持っていこうとも、自然や環境を重視し、両立するベイエリアでなければ、古くからの歴史を紐解いてもお許しいただけないのではないかと思います。

こういう時に、国の関係機関、関西圏の各自治体が一堂に会して、未来の子どもたちにより豊かな大阪湾を残そうという話し合いの場を立ち上げることができまことは大変ありがたいことであり、また意義のあることだと思っております。

以前、記者会見でも申し上げましたが、大阪府では、若手職員が中心になって、部局横断で大阪湾の再生について考えて参りました。昨年11月には近畿地方整備局、9県政令市などの若手職員の方々に呼びかけてワーキンググループができ、今年の4月には、水と緑の回廊の形成、住民やNPOと一体となった沿岸域管理などについて皆で提案させていただいたという経緯があります。

推進会議では、このような若手職員の方々の提案が、考えだけではなく、現実にこの大阪湾において活かされる形になることが、今後の息の長い大阪湾再生事業の大きなエンジンになると思われまますので、どうか大胆な制度改革を含めて、この場で実現への道が開かれますよう、よろしくお願い申し上げたいと思っております。

もう一つ、関西圏には、各府県、市に環境関連産業ともいえる、水の再生や自然の再生に関連する先進的な技術を持った企業が数多くあります。したがって、この会議ではそういう地元の技術の活用や、足りない部分に対する新たな開発を含めてご検討いただき、水の都の関西全域から「水の再生」を発信するという意味で、日本全域の先導的なモデルになるような活動をしていただければと願っております。

かつて大阪湾は、万葉集に「なにわの海はおしてるやの海」と書かれ、まさにその名のとおり、太陽の輝く海として紹介されておりました。しかし、最近の歌では「悲しい色やね」といわれ、これも大阪湾にかけられた一つの修飾語になっ

てしまいました。関西の人の中には、「暗い、汚い」というイメージで答える人もおられますが、これは残念なことです。どうか、本日のこの取り組みを第一歩にして、もう一度、私たちの「茅渟(ちぬ=黒鯛)の海」「おしてるやの海」を回復できるように、皆様方の精一杯のお知恵とお力添えをお願いして、ごあいさつに代えさせていただきます。

3. 都市再生本部の取り組み「海の再生」について

都市再生本部事務局次長・本日は、この会議の事務局から「エコスタイルでよい」というお話がありましたので、上着なしで参りました。ネクタイを締めておりませんと体感温度が2度ほど下がるということですので、大変気持ちがよいのですが、残念ながら私は半袖を持っておりませんでしたので、もうひと頑張りして半袖のシャツで来れば、もう1度くらい体感温度が下がったのではないかと思います。

都市再生本部におきましては、日本の再生、特に都市の再生を重要な課題として、これまで5次にわたって都市再生プロジェクトを決定し、地元の皆様、自治体の方々、関係部署と連携をとりながら強力に取り組を進めているところです。その中でも海の再生につきましては、平成13年12月4日に開催された都市再生本部の第5回会合におきまして、都市再生プロジェクトの第3次決定として、大都市圏における都市環境インフラの再生の中で大いに取り組むことになりました。昨年2月に東京湾の再生推進会議が設立され、現在、行動計画を定めて取り組みを進めているところです。本日、大阪湾におきましても再生推進会議が開かれますので、日本の環境の改善にとってエポックメイキングになるのではないかと期待しております。

本日は近畿整備局のご好意により、また大阪府のご案内によって、ヘリコプターで関西国際空港から大阪湾を拝見いたしました。最初は水もきれいでしたが、湾奥に行くにしたがいまして、浜寺公園の緑は大変に美しいのに、堺泉北港辺りから水面がこげ茶色になっていきます。さらに、尼崎から神戸に向かい、神戸の水面をよく見ますと赤い縞模様が拝見できましたが、赤潮ではないかと思われるので、現実の厳しさを感じたところです。

環境問題に対する取り組みはすぐに成果が上がるものではないと思います。「たとえ明日世界が滅ぶとも、私は林檎の木を植える」という言葉がありますが、将来について危機感を持ちながらも改善に向かって努力を重ねていくという決意が重要だと思っております。地元の皆様方の取り組みに大いに期待し、また都市再生本部事務局といたしましても、それを全面的に支援していこうと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(知事退席)

4 . 「大阪湾再生推進会議」の設置について

「大阪湾再生推進会議」の設置について (案)(資料 1)

5 . 「大阪湾再生推進会議」の設置要綱及び構成について

「大阪湾再生推進会議」の設置要綱 (案) について (資料 2)

「大阪湾再生推進会議」の構成 (案)(別紙)

6 . 座長選出及び幹事長の指名

座長：谷口局長 (国土交通省 近畿地方整備局)

幹事長：足立企画部長 (国土交通省 近畿地方整備局)

7 . 各機関の取り組み状況について

各省庁の取り組み状況

- ・国土交通省 近畿地方整備局
- ・海上保安庁 第五管区海上保安本部
- ・環境省環境 管理局
- ・農林水産省 近畿農政局
- ・水産庁 漁港漁場整備部

自治体の取り組み状況

- ・大阪府
- ・兵庫県

8 . 意見交換・その他

座 長・説明に対する質問、ご意見等を伺いたい。

閉鎖性海域の水質変化について

大阪府・環境省の「大阪湾の閉鎖性海域の水質変化」の図について、1989 年～1991 年度の図と 1999 年～2001 年度の図を見ると、3 のラインが兵庫県の方に寄っているが、これは理由があるのか。

環境省・たまたまこの3年はこうなったということで、単年度では少し違うと思う。ただ、大きな傾向として、20 年前と比べると若干よくなっているのではないかということを行っている。

座 長・正確な理由がわかれば、知らせてほしい。

- ・C O Dの経年変化は平均値的に見るとこのような推移でやや良くなっているようだが、過去に汚染されたものが蓄積され、ヘドロのような形で海底に沈んで沈静化しているので、下手に拡散してしまうと悪さをすることもあるかもしれない。そういう蓄積ベースでは、どのように考えればよいのか。

環境省・底に溜まった泥の中には窒素とリンがかなり蓄積しているので、それが底泥から海水中に溶出して、結果としてC O Dが内部生産されて水質が悪化、改善しないという傾向は、大阪湾に限らず、東京湾などでも指摘されているが、実際にかんがりの割合であると思う。したがって、環境省も底泥からの溶出の程度をいろいろな海域で調査しているが、いずれにしても陸域からの負荷と変わらないくらいの量が底泥から出ているのではないかという指摘もある。

- ・底泥からの溶出を防ぐためには、浚渫なども重要な対策だと思う。

座 長・過去に蓄積された負の遺産を始末しなければ、食物連鎖で、その蓄積されたものを元にした微生物を食べることになるという印象が残ってしまう。目標を定めるには、これ以上汚さないというわかりやすいが、過去に蓄積されたものの始末をアンタッチャブルにするという考えもあるかもしれないので、それをどのように考えるかが、具体的なアクションプログラムを検討する時に重要ではないか。

- ・ヨットで有名なラッセル・クーツが、これから数ヶ月かけて、和歌山のマリナシティをスタートして瀬戸内海の拠点をクルージングしながら世界にアピールすると聞いている。瀬戸内海と地中海を比べると、地中海は観光面でも宣伝が行き届いているが、瀬戸内海は地中海よりはるかにきれいだといわれた。考えてみると、確かに地中海の方が閉鎖されている。そういう比較は国内ではあるが、そのように世界と比べるとどうなのか。悪いというだけでは誰も喜ばないし、助けてくれないので、本当に環境基準を侵しているのであれば問題だが、アクションプログラムを考える上で元気の出るような内容も必要ではないか。

都市再生との関係について

大阪府・大阪湾の水質を改善して再生するというのは長いスパンの話で、それは絶対に行わなければならないし、誰もが納得するが、それが都市再生とどのように結びつくのか。都市再生はこの何年かで尽力しなければならないので、一方で頑張っていることをいろいろな形でアピールする等も大事だと思う。

市民の協力について

海上保安本部・海洋性レクリエーション、海洋レジャーという分野があるが、書いている

のは親水ゾーンという言い方止まりである。海がきれいになって恩恵を受けるのはきれいな海を見て楽しめる住民だが、同時にそれを積極的にレジャーなどに活用していく部分もあると思う。海水浴や釣りなどだけではなく、ウィンドサーフィンなども盛んになる可能性は大きい。まずきれいにすることが前提だが、一つの目的としてはそういうこともあることを頭に入れておいていただきたい。

- 座長・この推進会議で皆さんのご意見を伺い、具体的な行動計画を策定していくことになるが、個人的には今の指摘は重要だと思う。市民参加ということで、できるだけ多くの市民の協力を呼び込むことが必要である。現状を知ってもらうと同時に、他所で浄化された事例が紹介されると、もっと市民が関心を持ってそれぞれ自助努力をしてもらえる部分も多くなるのではないかと。
- ・さらに、モニタリングも良いが、例えば、海中の展望台のようなものをつくって、「こんなに汚れているから黒鯛(ちぬ)が育たない」という現状を見てもらうことも重要ではないか。黒鯛がいる場所に設置して、黒鯛が寄ってこないところと、黒鯛が生まれ育つようなところの違いを見てもらうこともあってよいのではないかと。誰が設置するかというところまでは考えていないが。

下水道の合流式改善について

都市再生本部・汚濁の原因は生活系の汚濁が大きく、中でも、合流式の下水道が大きな要因となっている。しかし、直ちに改善するといっても、過去の設備投資や出口の問題、配管の問題等を考えると簡単にはできない。この点を改善するために、スペースを要せずに効率的にできる技術が開発できれば、効果があるし、産業的にも意味があると思う。いろいろな産業開発は、これから先の人類にとって価値があると思うので、大阪湾の再生でアイデアがあれば教えていただきたい。

事務局・大阪は、秀吉が大坂城を築城した時に整備された太閤下水が今の合流式の下水になっており、それが公共水域に流れ出すと大きな問題になる。東京でも同じような問題があるが、雨が降り出した最初の濃度の濃い部分を一時貯留して、雨のピークが過ぎた後に処理場に送って処分するという方法が、下水道事業の中でできるようになってきている。大阪市もそういうことを検討されていると聞いており、そういう一つ一つの蓄積が大阪湾の水質浄化につながるのではないかと。松屋町辺りに管道を通すという話を聞いたが、教えてほしい。

大阪市・大阪市は古くから下水道整備をしているので合流式だが、緊急に 650 億円をかけて 5 ヶ年で合流式改善を行うことを考えている。雨が降った直後の初期雨水が一番汚いので、それを雨水滞水池で貯留し、雨が止んだ後に処理系列に戻して

処理して流すか、あるいは雨天時活性汚泥処理で、今まで以上に降った雨を処理系統に流しても大丈夫という実験結果も出ているので、そういうことを地道に完璧に行えば、分流式よりも合流式の方がよいと思っている。道路上に降った雨から流れてくる汚濁物質(ノンポイントソース)も完全に処理して流せば、時間はかかるがきれいな大阪湾になるのではないか。

海底清掃について

神戸市・水産庁に伺いたいのが、海底清掃による漁場環境の保全を挙げられているが、具体的にはどの辺りから堆積物の除去を行う計画なのか。

水産庁・今は漁港漁場整備事業として一本化されているが、昭和51年から沿岸漁場整備開発事業を公共事業で行っている。これは三つからなり、まず漁礁については、天然石、コンクリートブロックや鉄鋼でできた構造物を海底に沈めて魚の棲み場所を作って漁場にする。二つ目が増殖場造成事業で、浅い所に漁礁構造物を入れて藻を生やすなどによって小さな水産動植物の隠れ場、産卵場にする。三つ目が保全事業で、堆積物の除去を行う。

- ・大阪湾では養殖場の底泥が悪化したり、大都市に近い所ではヘドロ状のものが溜まってカレイ類などが減ったりしている。そこで、ポイントのヘドロを出したり、作漥(さくれい) 覆砂等いろいろな方法で、都道府県や市町村が事業主体になって行われ、要望にもとづいて補助事業として実施してきた。濃度や深さはそれぞれの海域の特性や対象とする資源によっても違うが、一般論としては以上のとおりである。

近畿地方整備局・小さな子どもが「都会の海は汚いのが当たり前」という意識を持っていると聞き、問題だと思っている。次世代にいかにかきれいな海を引き継ぐかが重要であり、海に対する期待を持ってもらうことが大事になる。先程、都市再生という喫緊の問題の解決と息の長い環境対策をどうリンクさせるかという問題が提起されたが、それはこの会議の課題にもなると思う。やはり「こうすれば海はきれいになる」という取り組みのシナリオを書いておくことが重要ではないか。その時に、モニタリングをしてデータを見ながら現状を知ってもらう、あるいは市民が直接接する水辺をきれいにすることも含めて、手近なところから具体的なものを作り出せるようなプロジェクトを行動計画に書き込むことが必要だと思う。

事務局・文部科学省の教科書には「川は水質が悪く、危ないので、行ってはいけない」と書かれているが、そういうことではいけないということで、文部科学省、環境省、国土交通省が一緒になり、地域と学校が協力して、学習の場として適当な

場所を点検して選び、そこを使って自然体験活動をするという取り組みを行っている。海も同じような取り組みをしていく必要があるが、海は川よりも危険度があると思うので、例えば指導員やライフセーバーと一緒に取り組むなどの仕組みづくりをした上で、そういう活動を広く市民参加型で行うことが重要ではないか。

近畿地方整備局・都市環境インフラという言葉を使っているが、大阪湾では、きれいな水そのものが教育にとってのインフラであり、あるいは新しい観光産業にとってのインフラそのものだという意識も次第に普及していくのではないかと思う。

「魚庭(なにわ)」の出典について

座長・水産庁の資料で「魚庭(なにわ)」と書かれているが、何かの文献に載っているのか。

水産庁・よくわからないが、大阪府の資料にも出ているので、詳しいのではないか。

オブザーバー・「茅渚(ちぬ=黒鯛)の海」といわれているが、魚が豊富にいて魚の庭のようなものということで「魚庭(なにわ)」という言葉があったようである。

水産庁・資料を出した責任もあるので、大阪府の担当部局の協力も得ながら、幹事会までに行きわたる説明できるように努力する。

座長・古事記に載っているなど、そういうものではないということか。

水産庁・語呂合わせのようなものかもしれない。

オブザーバー・昔、魚は「な」といわれた。「酒の魚」で「さかな」になった。

アドプト・プログラムについて

都市再生本部・大阪府は、住民との協働の取り組みにおいて、地元市町村とどのような形で進めているのか。

大阪府・府と市と住民の三者でアドプト・プログラムに取り組んでいる。例えば、道路などにおいて、府は保険をかけたり、道具を貸し出したりして、市はごみを回収し、住民は清掃活動をする、というように協定を結んで行っている。海ではまだ一つだが、道路ではかなり進んでいる。

座長・呼び方は異なるが、道普請の文字を置き換えた「未知普請」に3年前から取り組

んでおり、昨年から近畿地方整備局も「未知普請」を行っている。来月末に名古屋で全国大会が開催されるが、併せて「みちぶしんミュージカル」を公演し、大阪府のアドプトのような概念と同じように、いろいろな形で市民の参画が得られるようにフィールドと情報の提供を行って、問題意識が共有できるように考えている。滋賀県や兵庫県など各府県でも熱心に取り組んでいる。

- ・昔から御堂筋なども受益者負担を行っているので、そういう精神は各自治体にあると思う。また機会があれば説明したいし、まとめ方でもそういうことが一つの大きな課題になるのではないかと思う。

その他

事務局・今後は事務レベルと検討させていただき、大阪湾再生の推進に向けて、都市再生本部のご指導も得つつ、がんばっていきたいと思っている。

これをもって閉会とする。

以 上